

石油情勢

1. 国際情勢

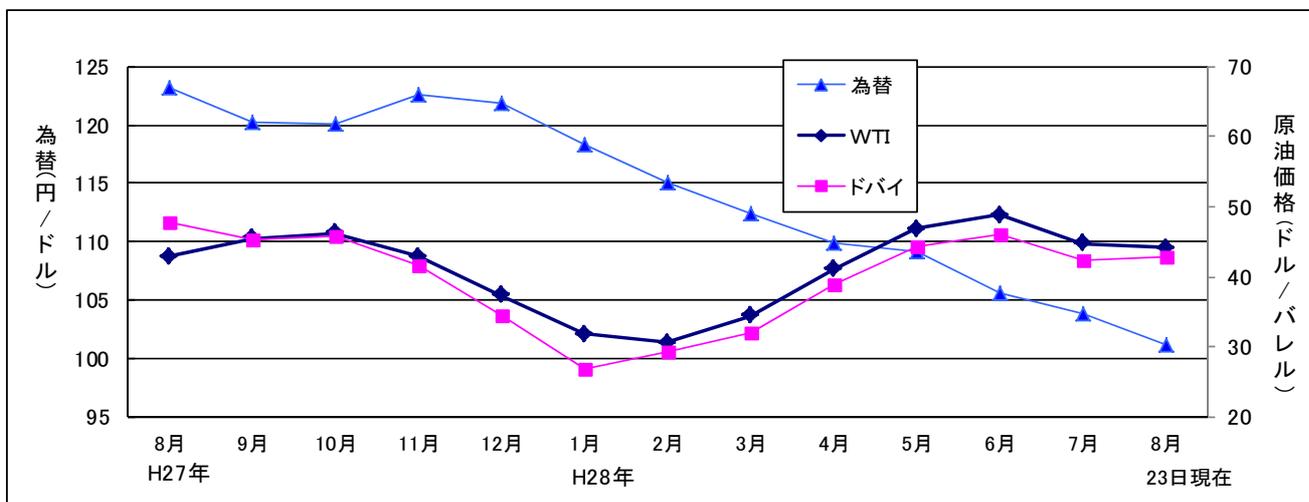
- (1) 原油価格（WT I）は、需要と供給や産油国などの諸情勢に左右されます。
- (2) 平成28年は、中国をはじめとした世界的な景気減速懸念等で2月に最安値（30.62ドル/バレル）を付けた後、ナイジェリア・ベネズエラなど産油国の政情不安から値上がりし、6月以降は、英国EU離脱決定等を受けて値下がりに転じました。
- (3) 8月は、OPECが9月下旬に供給過剰解消・原油相場の安定化に向けた協議を開くことへの期待感等から値上がりしています。（8/24時点 48ドル台/バレル）

原油価格（WT I）の推移は、表1のとおりです。

<用語の解説>

- WT I…米国産原油。世界の石油価格の動きを示す代表的な指標。
- ドバイ…中東産原油。アジアの石油価格の動きを示す代表的な指標。
- バレル…原油や石油製品の国際的な計量単位。1バレルは約159リットル。

【表1】<石油価格の推移 ※月平均価格>



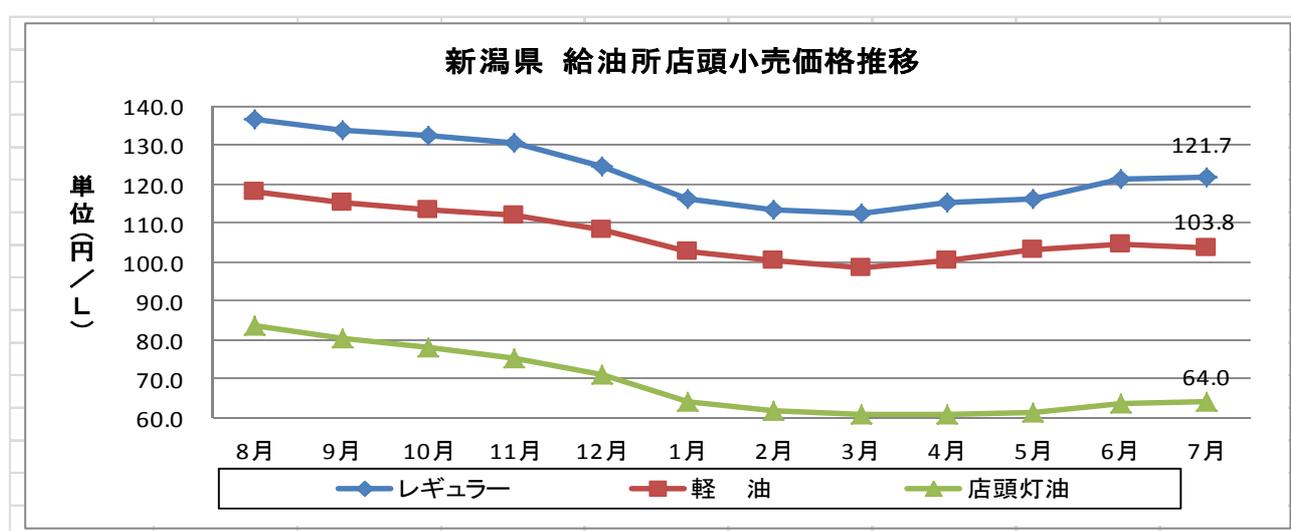
※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

2. 国内情勢

- (1) 石油製品小売価格は、原油価格（上げ・下げ）や、為替（円高・円安）の動向によって変動します。
- (2) 平成28年の給油所店頭小売価格は、それらの動向を受けて値上げ傾向となっています。

【表2】<新潟県・給油所店頭小売価格（消費税込）の推移>

※資源エネルギー庁が毎週水曜日に発表する、石油製品価格調査から算出しました。



3. 今後の石油情勢（見通し）

- (1) 原油価格
9月末のOPEC会合までは上げ基調（45ドル/バレル以上か）で推移し、その後は結果を受けて変動（上げ・下げ）するものと思われます。
- (2) 為替
8月末時点で1ドル101円前後と、当面円高ドル安基調が続くと見られています。
- (3) 石油製品小売価格
円高ドル安ながら、原油価格がそれを打ち消す上昇をしていること等から、全油種とも値上げ傾向になると思われます。
ただし、灯油は製品在庫の積み増しが進んでいることもあり、10月頃までは現行水準で推移するとの見方も出ています。

（石油事業部）

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。